

あと一步の向上に向けた取組

函館市立大川中学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- 言語活動の充実を通して互いの学び合いや話し合い活動を授業に取り入れる
- 学ぶ意欲を高め、基礎・基本の確実な定着を目指す授業

2 取組の概要

(1) 学び合いや話し合い活動を取り入れた授業の工夫

生徒の学力向上に資する活動として、昨年度より互いの学び合いや話し合い活動等の言語活動を授業に取り入れることを校内研修にて取り上げ、教職員が一体となって進めている。検証過程であるが、生徒の授業への取り組みは積極的になったと評価している。



【複数教員による授業の様子】

(2) 基礎、基本の確実な定着

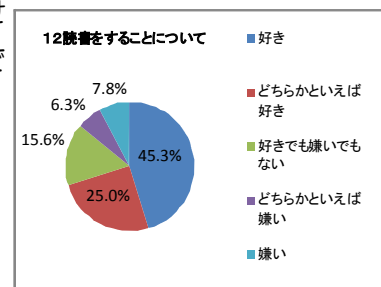
本校には、理数教育指導員1名（以下指導員）、特別支援教育支援員1名（以下支援員）が配置されている。数学の指導体制として指導員を配置し、1～3年の全時間について複数体制を敷いている。また、教員・指導員また、学年団として意欲のある生徒やテスト結果などから対応が必要と判断する生徒には、放課後や長期休業中の補習や深化学習を呼びかけ参加させる等、個に対応しながら取りこぼしや授業に遅れがないよう指導している。



【朝読書の様子】

(3) 言語活動の充実における全校朝読書の実施

「朝読書」については実施4年目を迎え定着している。活字離れを防ぐだけでなく、落ち着いた学校生活の始まりによい影響が認められる。7割の生徒が読書が好きと答えている。



3 成果（○）と課題（●）

○ 学力テストやCRTの結果の比較から基礎的な学力は向上していると判断している。また、生徒の学習に対する意欲の高まりは、授業の態度、講習補習への参加数の向上、生徒の自己評価アンケート等から推察できる。

● 「学びの習慣化」にむけて、各教科の授業と家庭学習の継続的な連携が必要であり、今後の課題である。